

CASSIOPEIA—UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



JICAカシオペイア・プロジェクト短期専門家の安食氏(左)が、ルサカ州保健局での医療機器四半期会議で機器の故障原因の分類を発表。右はチパター一次レベル病院のムワンディラ氏(生体医工学技師)。

5つの一次レベル病院の医療機器技術者が、計画予防保全 (PPM) 文書を更新

チパター一次レベル病院、バランスト・スコアカード (BSC) の更新ワークショップを実施

チパタおよびマテロー一次レベル病院がJICA本部から訪問者を受け入れ

病院マネジメントハンドブックの編集チームが草案を最終化

5つの一次レベル病院の医療機器技術者が、 計画予防保全 (PPM) 文書を更新

短期専門家 (医療機器管理) の着任を受け、ルサカ州保健局は2025年11月13日、ルサカ郡内5つの一次レベル病院の医療機器管理部門と医療機器チャンピオン、チェルストン・ミニ病院やバウレニ・ミニ病院の参加者も対象とした合同会議を開催しました。会議は、ルサカ州保健局の主任医療機器担当官であるシンカラ氏の指導により実施されました。

会議の目的は、医療機器技術者 (MET) およびバイオメディカルエンジニアが各部門から医療機器の修理を依頼される際に用いられる修理依頼票 (ジョブリクエストカード) と保守に使用している「計画予防保全 (PPM) チェックリスト」の改訂案を共有し、更新を提案することでした。計画予防保全 (PPM) は機器の要件に応じて、月次、四半期、半年、年

次などの頻度で実施されています。

遡ること5月、修理依頼票には故障発生原因を記録する箇所が指定されました。故障原因の分類には、電気システムの不具合、粉じん、水関連、使用者による不適切な取り扱い、その他があります。これらの項目を記録・分析することで、医療機器部門は機器損傷の原因を特定します。データを蓄積することで、原因に応じた予防保全を病院に計画・提案できるようになります。

これについて、短期専門家の安食氏は機器故障の原因分析結果を発表し、故障原因の多くは未然に対策の取れるものである可能性が高いこと、医療機器管理部門のみならず、医療機器チャンピオン、シニアマネジメントの各々、もしくは三者が協力することで取りうる対策があることを紹介しました。参加者は、提案された対策は修理するよ



カニャマ一次レベル病院のムンバ氏 (医療機器技術者:左) の発表にコメントするルサカ州保健局のシンカラ氏 (主席医療機器担当官:右)。

りも低いコストで実施できることに納得しました。具体例として、電力サージへ対策には、機器を守るためのサージ保護装置の購入をシニアマネジメントに要請すること等が議論されました。

その後、カニヤマ病院の医療機器技術者であるムンバ氏が、データを蓄積するために、施設でどう記録を取り、記録をファイリングするか、その実務を説明しました。フォローアップを容易にするためにも、ジョブリクエストカードを確実にファイルするよう参加者へ呼びかけました。

故障原因の分析について、チパタ病院の臨床ケア責任者（HCC）のチバング医師とチレンジェ病院の臨床ケア責任者代行のスワナ医師は、シニアマネジメントの立場から、故障原因を示すデータがあることで、低コストの予防策など、具体的な対策を計画しやすくなると述べました。

JICAカシオペア・プロジェクトのチーフアドバイザーは、PPMの実施を徹底するよう参加者に呼びかけました。PPMは医療機器の損傷を防ぎ、耐用年数の延長につながるためです。予備部品や新規機器の購入は高額であり、施設運営の持続可能性の観点からも、PPMの推進が重要であると強調しました。

さらに、ルサカ州保健局長に代わり、公衆衛生専門家のカヤウエ医師が村井チーフの発言に同調し、更新版PPMの活用を参加者に促しました。更新版PPMは業務の整理に役立つだけでなく、最も一般的な機器故障原因の特定にもつながります。カヤウエ氏はまた、医療機器が患者ケアにとって重要なことから、医療機器技術者とバイオメディカルエンジニアの業務は、施設運営を円滑にする上で不可欠であり、州保健局としてもその役割を重視していると述べました。



医療機器会議に出席した、ルサカ州保健局のカヤウエ氏（公衆衛生専門家）。

チパター一次レベル病院、 バランス・スコアカード(BSC)の更新ワークショップを実施

チパタ病院は、病院の部門長を対象に、バランス・スコアカード(BSC)の見直しと更新を目的としたワークショップを11月6日に開催しました。中心となったのは、病院プランナーのンコマ氏です。チェルストン・ミニ病院の計画担当官であるカゼンベ氏とカシオペア・プロジェクトの技術支援を受けて実施されました。

本ワークショップの狙いは、施設が直面する新たな課題をBSCに反映させ、計画策定にBSCを使用することが求められている新任職員が、このツールを理解し実務で使えるようにすることでした。

臨床ケア責任者のチバング氏が議長を務め、参加者は戦略的計画の基本、問題ツリー分析を用いた課題の特定方法、さらに戦略目標を設定し、目標達成に必要な行動へ落とし込む手順

を学びました。グループ演習では、戦略目標、重要指標(KPI)、ターゲット、アクション、期限、担当者を整理しました。

多くのグループが、理学療法部門での患者待ち時間の短縮、外来部門の時間遵守、そして記録室における記録管理とファイリング体制の改善を挙げました。また、BSCを活用する意義についても共通理解が得られました。BSCは課題の根本原因を整理するのに役立つだけでなく、各部門と病院全体が取るべき行動を具体化し、目標達成までの道筋を描くうえで有効なツールであることが確認されました。

最後に、ンコマ氏は、参加者に謝意を表し、ファシリテーションを担ったカゼンベ氏の知識と経験の共有を称え、カシオペア・プロジェクトにも感謝の言葉を述べました。



チパター一次レベル病院で開催されたバランス・スコアカード更新ワークショップのグループワークで議論する参加者たち。

チパタおよびマテロ一次レベル病院がJICA本部から訪問者を受け入れ

チパタおよびマテロ病院をJICA本部の小川瑤葉氏が訪問しました。小川氏は、JICA本部でカシオペア・プロジェクトを担当しています。職員研修のため、ザンビア事務所に2か月半滞在中、プロジェクトの2つ目の成果である感染予防管理(IPC)の進捗を把握するため、各病院のIPCチームの活動に参加しました。

IPCラウンドは、IPCチームが各部門を巡回し、IPCチャンピオンとともに手順の実施状況を確認し、課題の把握と改善促進を行う活動です。あわせて、病院職員や学生にIPC実践を周知し、各部門からの懸念や課題に対して助言やフィードバックも行います。

チパタ病院への訪問に際して、小川氏は、継続的にラウンドが実施されている点を評価するとともに、物資の不足課題となっている現状を確認しました。また、各部門固有の課題に対して

具体的な解決策を確認し、フィードバックを行っていることを称賛しました。

マテロ病院への訪問では、IPC委員会会議に出席しました。ここではIPCチャンピオン、各部門長、IPCチーム、病院シニアマネージャー達が集まり、IPCチームが実施した院内IPCラウンド結果の報告と意見交換が行われます。

マテロ病院のIPC担当医師であるチャンバ氏は、小川氏の訪問とJICAの支援に謝意を述べました。

小川氏は、データに基づく意思決定の重要性を実感し、IPCラウンドやIPC委員会会議が、収集したデータを分析し、課題を特定した上で解決策を話し合うための有効な場になっていることを確認しました。



チパター一次レベル病院での感染予防・管理ラウンドに参加する小川氏(JICA本部)。

病院マネジメントハンドブックの編集チームが草案を最終化

ルサカ州保健局は、病院マネジメントハンドブックの編集チームを招集し、2025年11月14日に、第2回編集会を開催しました。この会議では、州保健局長に提出する草案の更新と確認を行いました。

病院マネジメントハンドブックは、5年間にわたるカシオペア・プロジェクトの集大成です。本プロジェクトは、質の高い保健医療サービスの提供に向け、(1) 病院運営管理能力の強化を基盤に、(2) 感染予防・管理 (IPC)、(3) 必須医薬品と医療材料の在庫管理、(4) 医療機器管理の3つの技術領域への支援と、(5) 保健省、州保健局、郡保健局と5病院をつなぐ連携・調整に取り組んできました。

ハンドブックは、5つの一次レベル病院で培われた病院運営管理の実践を扱うとともに、州保健局と郡保健局

が一次レベル病院を支援・監督する際の役割を詳細に記載しています。

また、シニアマネジメント、病院マネジメント、部門／技術といった各委員会の設置を推奨し、病院職員の役割を明確にした上で、戦略目標設定とモニタリングのためのバランス・スコアカード (BSC) の運用方法や、成果ベースの予算 (OBB) 計画の作成、質改善 (QI) との連携方法が記載されています。

ルサカ州保健局シニア・プランナーのバロイ氏は、本ハンドブックがザンビア初である意義を強調するとともに、郡・州保健局による一次レベル病院のモニタリングや、病院自身の効果的・効率的な運営を支える実務的な手引きになると述べました。

本草案は、ルサカ州保健局のチョオンガ局長へ提出されます。



病院マネジメントハンドブックの編集会議に出席した、ムトワレ医師 (左、カニャマ一次レベル病院) とチャンダ院長 (右、カフエ総合病院)。

PHOTO FOCUS



チパター次レベル病院で開催されたBSC更新ワークショップに出席した、チェルストン・ミニ病院のカゼンベ計画担当官(2025年11月6日)。



病院マネジメントハンドブック編集会議に出席した、バロイ氏(左、LPHO)、カボレ氏(中央、LPHO)、ズールー氏(右、LDHO)。



マテロIPC委員会会議で第11回IPCラウンドの結果を確認する小川氏(JICA本部)とIPC委員会メンバー(2025年11月26日)。



チパター次レベル病院で開催されたBSC更新ワークショップに出席した、同病院計画担当官のンコマ氏(2025年11月6日)。



ルサカ州保健局による感染症への備えと対応会議で発表する村井チーフ(2025年11月11日)。



ルサカ州医療機器四半期会議に出席した、スワナ医師(右、チレンジエー次レベル病院)とタチバング医師(左、チパター次レベル病院)。



医薬品・治療委員会(MTC)会議に出席した、マテロー次レベル病院のンコマ薬剤部長とカラバ薬剤師(2025年11月26日)。

編集・デザイン: コンベ カパタモヨ
 編集: 萩原 悠
 編集長: 村井 真介

連絡先
 村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化
 プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
 Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101,
 ZAMBIA
 Cell: +260 765 192 865 (official)